

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和6年度第1回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和6年5月28日(火) 午後1時30分から午後3時5分まで
- 3 開催場所 水戸市役所2階 市民協働会議室こみっとルーム1・2
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 金本 節子, 大野 寛, 谷萩 美智子, 鹿倉 よし江, 大久保 惣太, 小島 幸子
 - (2) 執行機関【市民生活課】参事兼課長 白石 嘉亮,
副参事兼課長補佐 入野 高司,
協働係長 増子 博理, 主事 松川 のぞみ
【市街地整備課】係長 矢ノ倉 崇哲,
主幹 森 翔平
【農政課】ふるさと農業センター所長 長谷川 祐紀,
主査 岩浪 泰宏
【生涯学習課】課長補佐 小林 雅史,
社会教育主事 石井 浩司
【教育研究課】課長 安田 理恵
【高齢福祉課】技佐 海老沢 明子
【生活安全課】係長 鈴木 隆亮
【公園緑地課】千波湖管理室長 佐野 彰信
 - (3) その他 NPO法人セカンドリーグ茨城
株式会社ナムチェバザール
特定非営利活動法人ひと・まちねっとわーく
特定非営利活動法人ちいきの学校
特定非営利活動法人ふるさと空き家相談・サポート
NPO法人Happyリレーいろいろ
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」令和5年度
事業報告会(公開)
全体審議(非公開)

- 6 非公開の理由 (全体審議)
- ① 公にすることにより，当該団体の権利，競争上の地位その他
正当な利益を害するおそれがあるため。
- ② 公にすることにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の
中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱
を生じさせるおそれがあるため。
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 1人
- 8 会議資料の名称 令和5年度実施事業の概要
- 9 発言の内容

【事業報告会】

事務局	(開会の挨拶，進行についての説明)
委員長	ただいまから，水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」 の令和5年度実施事業の事業報告会を始める。令和5年度に実施した 6事業について，協働事業者と市担当課から，事業の概要，協働によ る効果，成果などについて発表していただく。
協働事業者 市街地整備課	〔発表：市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業〕
委員	事業報告書における来場者数について，令和5年度は2回とも近隣 のイベントとコラボレーションしていたと思うが，昨年度に単独でイ ベントを実施していた時との違いを伺いたい。
協働事業者	来場者数について，6月については，令和4年度と同様にアートタ ワーマーケットと合同で実施したが，令和5年度は認知度が上がり， 来場者数が若干増加した。11月はMitori0フェスティバルと同時に開 催し，Mitori0周辺がイベント会場となっていたため，市民会館のコ ンサートのお客様など，あらゆる所から人が流れていた。来場者数は 3,000人であったが，人を集めることが本来の目的ではない。
委員	令和4年度の11月にもイベントを開催し，高校生がアンケートを取 っていたが，そのアンケート結果の問題点や反省点を踏まえ，改善し たところがあれば教えていただきたい。 また，収支決算の人件費について，アンケート調査のボランティア に対して9,000円×2で18,000円の支払と記載があるが，1人9,000円 の場合は高く感じるが，どのように支給されたのか。
協働事業者	改善点としては，こどもマーケットなど，こどもを巻き込んだイベ

委員	ントを実施してはどうかとの御意見があり、周辺の子育て団体や、フリースクールなどに呼びかけて6月や11月に実施した。 次に、人件費について、9,000円は1人分ではなく合計の金額である。人件費は、交通費等の実費相当なので、1人に対して少額の支払いである。令和4年度はアンケートを高校生に依頼したが、令和5年度はコミュニティワーカーに依頼した。
協働事業者	道路を閉鎖して行うことは非常に大変なことなので、場所を絞って実施したり、規模の拡大が可能であれば、今後もあらゆる団体と連携してイベントを開催していただきたい。
協働事業者 農政課	協働事業担当課の職員に警察との折衝や通行止めのノウハウを教えてもらったが、通行止めは大変なことなので、行政と連携しながら行うことが大事である。 環境フェアや水戸まちなかフェスティバルの担当者からも開催の依頼があり、パブリック空間の道路だけでなく、芸術館の芝生広場まで展開している。
委員	〔発表：キッズトレイルランニング大会〕
委員	アンケートにおいて、初めての参加者が82%であり、成沢トレイルにまた来てみたいと回答した人が93%である。前回大会の時にも同様に、楽しかったのでまた来たいという人が多数であったと思うが、新規が8割であり、リピーターが少ないことについてどのように考えているか伺いたい。
協働事業者	我々としては、森林公園の自然を体感してもらい、認知してもらうことを第一の目的としているので、初参加が多いことは歓迎している。リピーターは想定より少なかったが、多くの子どもや保護者に大会を知ってもらうことができたので、ポジティブに捉えている。令和4年度はコロナ禍であったため、出場を控えた人が令和5年度に参加してくれたことで新規が多かった可能性も高い。
委員	印刷製本費の決算額が収支計画時より上がり、反対に保険料が下がったのはなぜか。また、令和4年度の大会では待ち時間の問題が生じ、令和5年度はその解決策として工作教室を実施しているが、チラシに掲載するなどして参加募集を行ったのか伺いたい。
協働事業者	印刷製本費はチラシ印刷費やホームページのデザイン費に要した。保険料について、令和5年度はトレイルランではなく、山歩きと誤って設定されていたため、結果的に安い金額となった。 工作教室については、問合せのあった方に対して工作内容や開催日時及び場所を連絡した。
委員	令和4年度の大会では、待ち時間を待つことができない低学年の参加者がいたことが問題点であったので、その方々を対象に含めて初めから案内することができていれば、リピーターが増えたのではないか。

協働事業者	反省点とさせていただく。
委員	令和5年度の大会は、何人の参加を想定していたのか伺いたい。 また、小学校5年生及び6年生の参加が少なく感じるが、少ない理由や、今後増やすために広報等どのようにするのか伺いたい。
協働事業者	参加人数は各学年20人程度で合計120人を想定していた。 高学年が少ない理由は、習い事が忙しいのではないかと考えられる。高学年の参加者の中で、表彰式までは次の予定があるため参加できない方がいた。しかし、感受性の強い低学年の参加が多かったことはポジティブに捉えている。
協働事業者 生涯学習課 教育研究課	〔発表：子どもの新たな体験活動の創出と地域の再発見〕
委員	令和6年度のわくわくプロジェクトに応募しなかったのはなぜか。
協働事業者	学校の協力があり、経費を抑えることができたためである。見守りなどのボランティアは保護者等の協力を得ることができ、謝金を抑えることができた。報告書に経費を要したが、近隣市町村へのPRに活用し、事業を拡大していきたい。
委員	収支決算書について、消耗品費としてタブレットケースを購入しているが、どのように使用したのか伺いたい。
協働事業者	各班に1台ずつ連絡やナビ、写真による記録のためのタブレットを準備し、タブレットを首から提げて常に使用できるようタブレットケースを購入した。
委員	水戸市から事業範囲を拡大することについて、どのようにプロジェクトを継続するのか伺いたい。
協働事業者	令和5年度は約50の体験場所を開拓したが、水戸市を起点として体験場所を拡大したい。水戸市のこどもたちに水戸市のことを知ってもらいたいため、水戸市を中心に開拓を進めたい。 一方で、大洗町や笠間市も体験場所として魅力的である。今後は、水戸市のこどもが市外で体験することも増やしていきたいと考えている。令和6年度は、茨城町や笠間市、ひたちなか市の学校も事業の実施に意欲的である。
委員	学校や保護者も事業の実施に協力的であるか。
協働事業者	非常に協力的である。体験先の事業者も大変協力的であった。今まで先生が決めていたことをこどもが中心となって決定し、体験場所への交渉もこどもが行った。こどもたちは交渉の電話の際に、自分で交渉して体験できることに喜びを感じ、「やった」と言っていた。
委員	活動しているこどもが生き生きしていたことが印象的である。こども主体の活動が広がってほしい。

協働事業者	卒業前の6年生に小学校の時に印象に残ったことを聞いたところ、この体験活動を出していた方がいたことが非常に嬉しかった。
協働事業者 高齢福祉課	〔発表：ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」〕
委員	当初の計画では、講習は2回の計画であったが、3回の実施について、スケジュールや予算に無理が生じなかったのか伺いたい。
協働事業者	特に無理はなかった。8月号の市報で表紙を飾った後すぐに募集をかけたところ、チラシ等を使わずに集客できたため、講習を1回増やして3回実施した。一方で、3回目の集客はチラシの反響が大きく、ほとんどがチラシから電話をいただいた。全体を通して特に不具合はなく、スムーズであった。
委員	協働事業報告書の参加者数とドラサポ実施報告書の参加者数の数が若干違うが、体験会のみに参加した方の数の違いか。
協働事業者	その通りである。
委員	体験会に参加した方がなぜ講習に参加できなかったのか伺いたい。
協働事業者	1回目の講習では、講習会は参加できないが、体験会には参加したいという方がいたので受け入れた。2回目以降は徐々に事業が浸透し、人気が出てきたため、体験会だけを希望する方は、少しずつお断りするようにした。
委員	講習の参加費は3,000円であるが、収支計算書における収入の参加者負担金で、500円の半端な数字は何か伺いたい。
協働事業者	全6回の講座の中で1回欠席した方に返金したものである。
委員	活動内容のビデオを拝見し、参加者が楽しそうに受講していたところが印象的であった。6回以降も受講の継続を希望する方がいると聞いたが、終了後も参加者の生活の一部となるようアフターフォローを行ってほしい。
協働事業者	御意見を参考にさせていただきたく。
委員	各市民センターで開催している健康増進事業と講習内容が重複している部分があるため、重複している部分については連携を図り、無料で広く市民が体験できるようにしてはいかがか。
協働事業者	受講者には市の事業の案内も行っているが、市の事業では、ドラサポで使用しているストレッチポールなどの運動器具を通年使用することが難しい状況であるため、市の事業で実施できないものを我々が担っている。

協働事業者 生活安全課	〔発表：空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業〕
委員	報告書における「お客様からの感想」はとても重要な資料である。これから相談したいと思っている方の参考になるので、ホームページに対応事例を公開するなど広報に活用してほしい。 また、固定資産税の通知に事業の案内を入れることは、協働事業として大変良い事例である。税金の支払等に悩んでいる不動産の所有者へ届けることで相談につながりやすい。
協働事業者	令和5年度は多数の相談を受け、経験やノウハウを蓄積できた。令和6年度は、6月から水戸市役所の市民協働会議室で空き家に関するセミナーを開催するが、配付資料に令和5年度のお客様からの感想を入れることで、より安心して相談いただけたと考えている。
生活安全課	チラシについて訂正させていただくと、固定資産税の納税通知書には同封しておらず、生活安全課から送付する空き家の所有者宛ての通知にチラシを同封した。納税通知書への同封については、チラシの枚数が確保できていないため、現状厳しい。
委員	協働事業が開始する前はどのような広報の仕方であったのか。また、納税通知書には何か空き家に関するものが同封されていないのか伺いたい。
生活安全課	納税通知書には数年前から空き家に関するリーフレットを同封しているが、わくわくプロジェクトのチラシとは別物である。反応があった場合は生活安全課が対応しており、必要に応じて、ふるさと空き家相談・サポートを紹介している。
委員	市外に住んでいる相談者が多いようだが、広告宣伝費を有効活用してほしい。高齢者の相談者が多いのであれば、年齢に応じた広報の仕方を検討していただきたい。
協働事業者	令和5年度は、市報の広告1回分を新聞広告に変更したが、番組表の裏面に掲載されたので、反応が無かった。令和6年度は、セミナーの取材を新聞社に依頼することを検討しているので、新しい形で掲載したいと考えている。
協働事業者 公園緑地課	〔発表：公園にハートいっぱいの種を蒔こう〕
委員	イベントの予定表は作成しているのか伺いたい。
協働事業者	予定表は作成していない。シャボン玉アートや、POPアート、ハンドベルや腹話術、アニソン森のコンサート等は、アーティストの方が無料でやっている。日時を指定するとキャンセルになってしまう可能性があるため、出演者の予定に合わせて臨機応変に対応している。来場者にはいつ来るのかなとわくわくしてもらうことを念頭に置いている。

委員	非常に多くの活動を実施しているが、担当課の感想を伺いたい。
公園緑地課	千波公園は広いため、迷子が発生したり、遊具から落ちて怪我をすることもあるが、団体の方々に見守っていただき、救急車を手配していただいたり、一緒に探していただいて、非常に助かっている。
委員	担当課のサポートもあり、3年間プロジェクトを実施することができた。しかしながら、報告書については、もう少し詳細に記載していただきたい。
委員	特に収支決算書について、具体的に記載していただきたい。
協働事業者	収支決算書について、プロジェクトにかかった経費を費目毎にまとめて記載した。団体で負担したボランティア等の人件費は除いているので御理解いただきたい。